

# 「公共施設へのアクセスルート ユニバーサルデザインガイドライン」を策定

～ 区民の声を活かし「わかりやすい」「歩きやすい」「使いやすい」整備を進めます ～

## バリアフリー化の現状と課題

建物、駅、道路等の  
バリアフリー化は着実に進展

管理区分でそれぞれ個別の整備が行われ  
施設間をつなぐ観点が不足

- 相互のつながりが悪く、利用者にとって使いにくい。
- それぞれの施設のバリアフリー整備が効果的に活かされていない。



敷地側の点字ブロック  
管理境界  
道路側



エレベーターがある改札口が別にあることが、案内標示でわからない。

## 更なる「外出しやすさ」に対する区民の期待

駅から  
公共施設への  
ルートに  
望むこと

- 案内板がわかりやすい 障害者57.1%
- 歩道などが広い 子育て世代70.4%
- 疲れたら途中で休憩できる 高齢者57.1%

(平成29年度 区役所来庁者へのアンケート調査)

## 「公共施設へのアクセスルート ユニバーサルデザインガイドライン」平成30年8月策定

全ての人々が安心、快適、自由に外出できる環境づくりのため、配慮すべき事項を具体的に示す手引書

[アクセス  
ルートのイメージ]

- ・一貫した案内誘導 (案内板・標識、点字ブロック)
- ・円滑な垂直移動 (エレベーター、スロープ)
- ・管理境界のつながり強化 (段差解消) など



施設間の移動や、乗り換えの連続性に配慮した施設内部の整備

- ・沿道施設のバリアフリー化
- ・まわりの人の声かけ など

施設と施設とをつなぐ経路の一体的な整備が必要

## ガイドラインに沿った今後の取組

30年度

区民参加による点検等

- 関係施設へ改善等の要請
- アクセスルートの指定  
改善方針のとりまとめ

31年度

モデル地区の改善整備

各整備者や管理者に対し、連続性に配慮した整備等を促していきます。



高齢者、障害者、乳幼児連れの方と経路の点検を行い、改善方針をとりまとめます。